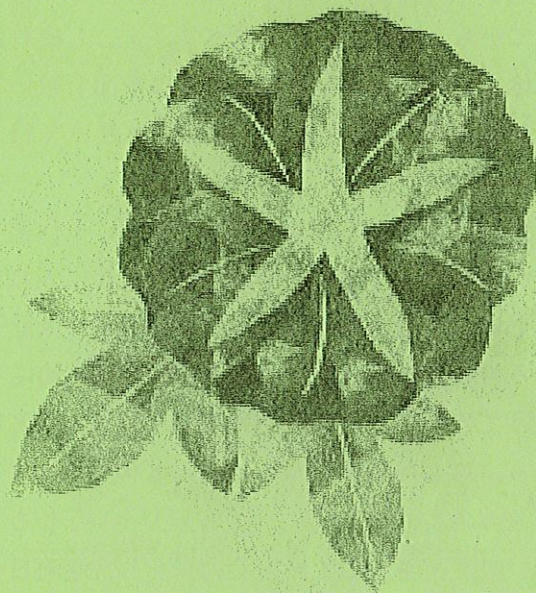


HSK こころから

64号

2018.7

初夏の朝
まぶしい光と
風をうけ
新たに生きる
思いをまわす



昭和48年1月13日第3種郵便物承認

HSK通巻番号556号

発行 2018年7月10日 (毎月10日発行)

編集 住所：札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名：特定非営利活動法人 (NPO)

精神障害者を支援する会

TEL：(011) 736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会 (HSK)

定価 50円 (会費に含む)



明日へつなぐ希望求めて

— 支援する会物語 (第8回) —

細川久美子



(前号からのつづき)

〈浦河の「べてるの家」から千代美ちゃんがやってきた〉

1997年2月のことでした。「若根荘を見学させてください」と、浦河から千代美ちゃんが突然やってきました。女性専用の住居と聞いていたので、札幌への買い物ついでに見てみたいという思いで、訪ねてきたのだとのこと。まだ、運営して間もない住居の部屋は空室があり、ひととおり見てから、ご飯を一緒に食べて「すこし疲れたから休ませて」と道生連の会議室に布団を敷いて少し休んだ後、「帰ります」と浦河へ戻って行きました。

雪が解けてほとんどなくなった4月、千代美ちゃんが突然やってきて、今度は「若根荘に入れてください」と言うのです。「べてるの家には話してあるの」と、聞いたところ、何度かは止められたようですが、「どうしても札幌へ行きたい」と言ったら、誰も何も言わなくなったとのこと。

中途半端な話で勝手に「いらっしやい」とも言えないので、浦河まで出向く約束をし、浦河日赤病院の精神科のケースワーカーだった向谷地生良さんに会う約束を取り付け、初めて北海道の南端で襟裳岬に近い町を訪ねました。浦河の街並みは、北欧のような家々が立ち並び、心和ませる風景の中、向谷地さんにお会いしました。

この「べてるの家」は全国的にも有名な当事者研究を徹底的におこなっており、当事者は縦横無尽に生活しているようでした。

「何回か浦河で暮らすようにと話し合いましたが、気持ちが変わっていないようなので、5月の連休に道生連の佐藤事務局長と会長と3人で迎えに行ったのでした。迎えに行くことを千代美ちゃんに伝え、「荷造りをしておいてね」と言って

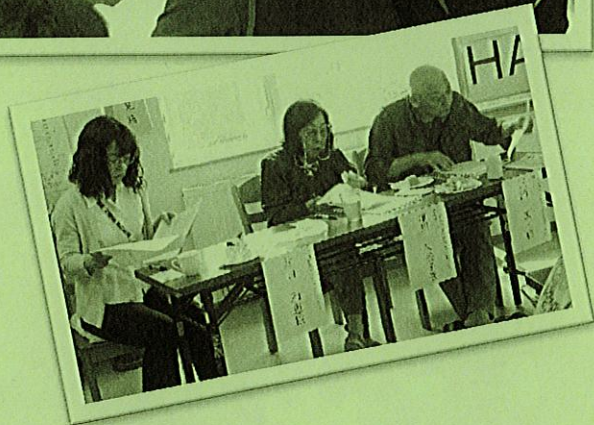
いたのですが、部屋に入ると何一つ片付いておらず、炊飯器の中にはカサカサになったご飯がそのままでした。ゴミ袋も段ボール箱もほとんどなく、休日だったためにゴミ袋を買うこともできません。駆けずり回って、開いていたお店から段ボール箱を分けてもらい、何とか片付けました。持ち帰れないごみは、日本共産党の町議の方をお願いしたところ、快く引き受けてくれ、とても助かりました。

荷物を車に積んでいても誰ひとり手伝ってくれず、さよならをしてくれる人もなく、浦河からの千代美ちゃんの旅立ちは、みんな快く思っていなかったようでした。

それでも元気よく出発できたのはなぜなのか、それは後々分かることでした。実の父を訪ねて秋田から出てきたものの、その父も亡くなって、そんな中で浦河から決別したかった…。それを知った時に細川は、千代美ちゃんの今まで生きてきた言いようのない重みを感じないではいられませんでした。千代美ちゃんの病状は決して軽いものではありませんでした。時には「若根荘の周りにサリンがまかれているから、来てはだめだ」とか、「知らない人が部屋に入ってくるから警察に電話した」とか、人が変わったように大声を出すこともしばしばで、入退院を繰り返しながらの暮らしてした。

(前号で書かせていただいたしげちゃんは退院ができず、昨年亡くなったことを身内の方から知らされました。ご冥福をお祈りします。)

(次号に続く)



HAPPY 総会開催！

5月10日に総会を行いました。

ふだんは前に出ないメンバーが司会や開
会・閉会のあいさつ、作業の振り返りの発言が
出来たことが良かったです。作業を振り返る
事で、改めて多くの人にHAPPYが支えられ
ている事を皆で確認しました。

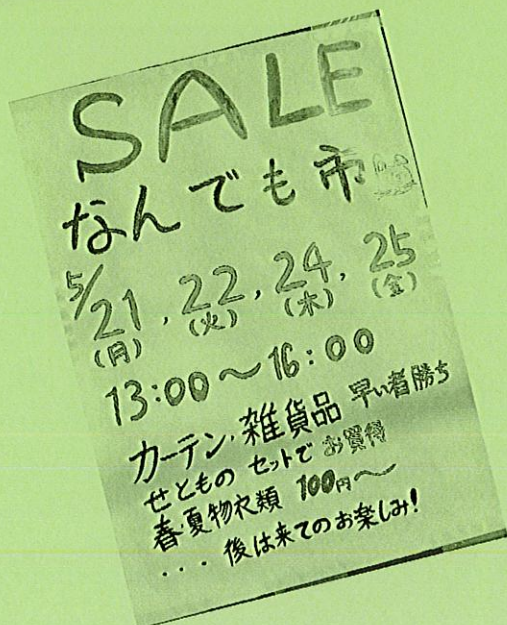
声を掛け合い、支え合って作業に取り組む
という基礎ができてきました。2018年度は
その基礎を土台に、メンバー各自がステップ
アップしていけるように、スタッフも支援し
ていきたいです。

皆で一体となって、総会に取り組み、成功さ
せる事ができました。

HAPPY ショップ 『なんでも市』 SALE

お天気にも恵まれ、たくさんのお客さまにご来店
いただきました。地域の方、メンバー、スタッフ、皆が
楽しめたミニバザーになりました。

HAPPY ショップも軌道
に乗ってきました！



かんぱーい

今年も

お花見大盛況



5月4日(木)アサヒビール園「ロイン亭」にて、支援する会のお花見が行われました。送迎バス付のプランで、2時間の食べ放題。参加者は78名でした。メンバー(スタッフも?)の糖尿病や痛風などの事を考えると、ちょっと心配……。でも、年に一回の食べ放題はみんなの楽しみ。食べるマナー「食べ残しや飲み残しをしない事」に気を付け、食事を楽しみました。庭園に開花した梅の花も見ごろで、散策もとても気持ち良かったようです。

「国民平和大行進」～雨の中、仲間と元気に参加しました～



5月19日(土)はあいにく雨天でしたが、支援する会からは、メンバー6名、スタッフ6名が参加しました。参加することで、すぐに戦争がなくなるわけではないけれど、平和への願いを胸に雨の中を、皆で励まし合って歩きました。

「絵画教室」～パステル画に挑戦中～

パステル画を教えているのは、ボランティアの吉田弦一さん。「上手に描く事より、自分の好きなように楽しんで描こう」と、毎回身近な素材を画材に取り入れながら、皆にアドバイスをしてくれます。



「手話同好会」で楽しく学ぶ



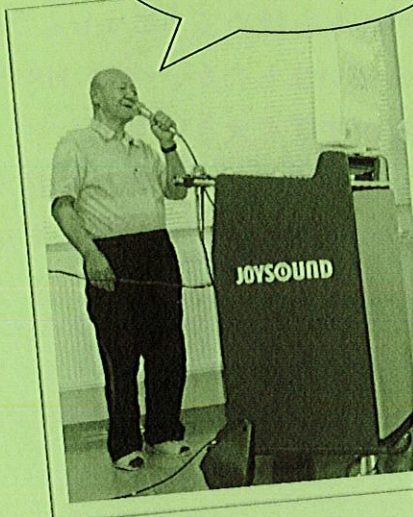
指文字の「と」

1カ月に一度集まっています。参加者が多くても少なくても続いています。「きょうされん」の行事等で『きこえない人に通じたよ』の声が増えるように、歌もとり入れながら学習しています。写真は、参加者の名前の一文字を「指文字」で練習をしている様子です。ぜひ一緒に学びませんか!



なみのたにまにいのちのはなが〜♪

「通信カラオケ」で楽しむ時間!



ダリアに「通信カラオケ」機器が設置されました!カラオケを歌うことは、本当に気持ちの良いものです。おまけに、「ポケ防止」「幸せホルモン」による「心の浄化作用」、内臓の活性化、脳のトレーニングなどの効果もあります。毎月のカラオケの時間が楽しみです。



みんなの声

毎月1回月曜日にダリアに通所しています。火曜日から金曜日は南平岸にあるB型作業所で、主にシフォンケーキ作りをしています。ダリアは生活や福祉制度にかかわる事で私の支えになっていて、つながっている事で安心して暮らせています。(菊地美智夫)

2018年1月31日にダリアに入りました。好きなことは、ピアノをひくことです。うたをうたうことも好きです。ダリアでわなげをしたのが楽しかったです。7月のダリア祭が楽しみです。(新井邑望)

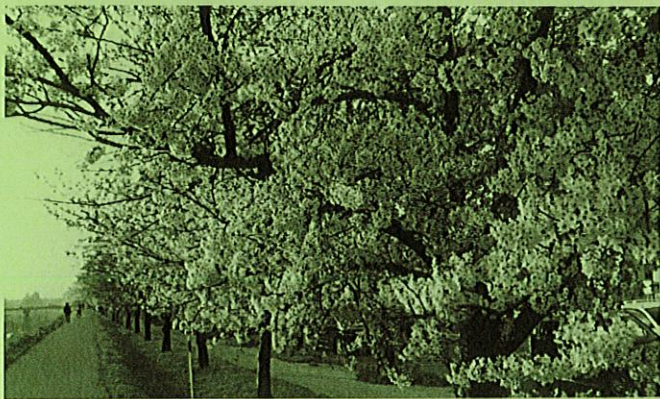
今年の春からグループホームのマゼルに入った者です。まずは、なれることから始めて、いろいろな行事にさんかして、HAPPYの作業もできるようになりたいです。

たまに、母さんの家に帰ったりしたいです。(小川恵明)

もう歩く事は出来ないずっと絶望的だった。100人に1人という病の重さに驚いたが手術して実際歩けた時が子供のようにうれしかった。後、何年かは解らないが残した人生を穏やかに心楽しく過ごして歩いていきたい。(樋口ひとみ)

59歳を迎えました。ヒザの故障で、バイトも辞めて「どうしようか」と悩んでいましたが、今はHAPPYの存在がすごく大きいです。

週に4日通うことで体調も整えようと思います。来年は還暦。まだまだこれから・・・。(伊藤勇人)



「近所の新川通りの桜並木」撮影(木崎直生)

2017年の事業報告です

〈ダリアの郷支援センター〉 毎日、午前中はミーティングや、運動系ゲームや脳トレなど、を行いました。2017年度は午後に新しく絵画教室が加わりました。基礎から始め『簡単で楽しめる事』をテーマに取り組み、作品をクリスマス会で展示することができました。5月～10月に行う『散歩』は、チラシで行先を告知するよう改善し、参加人数が6～7名に増えました。

課題であった『通所回数が少ない利用者の訪問活動』は、職員体制が整わず、十分な支援体制は整いませんでしたが、ストーブのオーバーホール・灯油ポリ管の保存点検・新しい利用者がアパート生活に慣れるまでのフォローなどの支援を行いました。

2018年は、新しく購入した通信カラオケを使った月1回金曜日の『カラオケレク』が始まります。利用者の要望を取り入れながら、通所に楽しみや生きがいを持てるように運営に取り組んでいきたいと思えます。
(米村スタッフ)



〈共同作業所・HAPPY〉 一日平均通所人数は21名、登録は男性19名、女性11名。作業は月曜日から木曜。中でもデコレーションケーキの底板や古紙回収袋の折作業は、みんな慣れて作業も手早くなりました。手作りの手芸品や、廃油石けんは地域のバザーに出店して販売しています。なんと男性メンバー2人がトートバックを型取りから最後のミシンかけまでできるようになりました。金曜日はミーティング。当番や作業がよりよく行えるように、困った事など出して話し合いました。

当事者活動にも積極的に取り組みました。きょうされん全国大会は1番のイベントでした。当日は全国から2000人が集まり、HAPPYからは20名が参加。手話の練習、大会グッズ販売に一年を通して取り組みました。

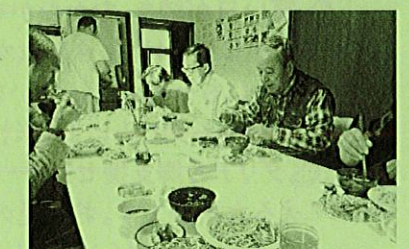
2018年度の課題は、①作業工賃アップ (HAPPY ショップを広く知ってもらおう工夫、生産性の向上、訪問販売の実施に取り組む)、②メタボ対策と体力アップ (ストレッチ体操、体調管理) です。皆で取り組みます。
(曾我スタッフ)



〈グループホーム〉 若根荘・マゼル・結・ぽぶら・ひなたの5住居。入居者30名。土日は、支援する会の全スタッフがシフトを組んでGHを訪問し、体調確認や服薬支援を行いました。祝日も食事担当スタッフが勤務し食事提供しています。

支援する会結成当初からの入居者2名が亡くなるという悲しい出来事がありました。お一人は、利用者最高齢の方で、排泄や歩行などの支援が必要になり、高齢者施設の見学を終えたばかりでした。もう一人は火傷から一命をとりとめ、その後GHに入居された方でした。お二人とも家族の支援を受けられない事情があり、葬儀は支援する会が執り行い、家族席には一緒に暮らした入居者が座り、お別れをしました。

入居者の高齢化、日額単価制でのGH運営の弊害、精神病がある事で他科入院の受け入れ拒否など、日常の支援の中でぶち当たる様々な問題を整理し、行政に働きかける事。そしてより良い福祉制度に変えていくのは、当事者とそれを支える私たちがのだと痛感しています。(藤原スタッフ)



4コマまんが

～チヒロとサト～



By はは

<編集後記>

❶ 寒い日が続く、なかなか暖かにならない北海道ですが、今年の「お花見」も大盛況でした!! 毎年心配される天気にも負けず、今年は本当の意味での「お花見」を楽しめたのではないのでしょうか?(笑) また、「新しい取り組み」にもチャレンジしています。楽しそうに笑う皆の笑顔に日々元気づけられています❷

次号もお楽しみに♪ (米村)

❸ ダリアの郷支援センターの利用者登録者は79名、職員27名、ボランティア6名。支援する会は100名をこえる大所帯です。お花見の集合写真がそれを物語っています! 支援する会を求めて来た方が「支援する会に来てよかった、がんばろう!」そんな風に思えるように、HAPPY・ダリア・グループホームのスタッフ皆と力を合わせて、頑張ります!(藤原)

《寄付金・寄贈品》
 当会の活動に対し、ご支援いただき
 厚くお礼を申し上げます。

(順不同・敬称略)

2018. 3. 21～2018. 6. 20

フジモトアキラ整骨院、北海道生活と健康を守る会
 連合会、北海道勤労者在宅医療福祉協会、松本真郎、
 小野寺、田村玲子、石戸谷敦子、高坂瑞世、川島義和、
 山階雅章、池田道子、内田民江、馬場、笹、上原、伊
 藤、鎌田、多田、高橋、鎌田、吉澤、兼子弥生、杉浦、
 林妙子、明神、五十嵐、杉田、小西やえ子、樋口ひと
 み、シモカワラ、増田、アマノ、堀田美千子、マツダ、
 サトウ、土沼芳枝、近澤広美、ウラハタ、日建インテ
 リア、木崎直生、野辺地淳子、浜林、浅川解子、作野
 喜朗、きょうや電機、ニチドク事務機、寺田詩織、片
 山則之、長沼綾子、伊藤昭子



～ご協力をお願い～

『書き損じハガキ、ありませんか?』

支援する会では「書き損じハガキ」を集めてい
 ます。頂いたハガキは、支援する会の財政活動
 に使わせて頂きます。

ご協力宜しくお願い致します。

ご協力
 ありがとうございます

7月5日(木)の『ダリア祭』には、
 多くのご寄付を頂きました。ありがとうご
 ざいました。秋は10月に行う予定です。
 引き続きご協力よろしく願いいた
 します。



HSK ころから
 昭和48年1月13日第三種郵便物承認
 発行 2018年7月10日(毎月10日発行)
 HSK通巻番号556号